



## オスマン帝国の古都から訪れる 湖上の町

ギョルヤズはイスタンブールからマルマラ海を渡った対岸にあるウルアバト湖の、その湖上に浮かぶ村です。建設は古代ギリシャ時代。現在は水と野鳥の風光明媚な景観で知られ、日本旅行業協会(JATA)の「ヨーロッパの美しい村30選」に名を連ねています。



紀元前6世紀頃の歴史を遊ることができるギョルヤズ(古代名アポロニア)



ブルサ周辺の名物イスケデル・ケバブ



ブルサを拠点に夕日を楽しむことも



ギョルヤズは野鳥の楽園

### 歴史豊かな野鳥の島

ギョルヤズは古代ギリシャ時代にはアポロニアと呼ばれ、オリーブの集積地として栄えた素朴な村です。島は1時間もあれば1周できてしまうほどの規模ですが、のどかな町並みのなかに古代ギリシャ・ローマ時代の遺構が残り、また橋で繋がれた対岸の村の丘、ザムバク・テペには4000人を収容したといわれる古代劇場跡など、トルコならではの長い歴史が息づいています。

またこの島はトルコ国内でも有数の野鳥の島として知られ、ペリカンやコウノトリなどの野鳥が棲むバードウォッチングのポイントとなつています(ラムサール条約にも登録)。

### 世界遺産ブルサを拠点に 主都周辺をじっくり周遊

「ギョルヤズへは、古都ブルサを拠点とするのが効率的」とトルコ共和国大使館・文化広報参事官室の担当者が語るように、両町村

の距離は約35キロほど。ギョルヤズの宿泊施設は小さな民宿程度ですが、トルコ第4の都市ブルサにはツアーの規模やニーズに応じた施設が揃います。

何よりブルサはオスマン朝の最初の首都で、「オスマン帝国発祥の地ブルサとジマルクズック」として世界遺産に登録されています。この街を拠点とすることで、オスマン朝時代の建物が残る村ジマルクズックや、キリスト教史上初の全教会規模の会議「ニカイア公会議」が開かれた町イズニクを訪れることも可能に。担当者は「イスタンブールからマルマラ海を渡る橋が完成し、ブルサへも訪れやすくなった。イスタンブールとその周辺の歴史古都をつぶさに巡る旅に目を向け、新たな切り口のトルコ商品の造成を」と語っています。



約700年前のオスマン朝の民家が保全されているジマルクズック



ブルサのシンボル[緑の霊廟]  
(イエシル・トルベ)